SURE 静岡大学学術リポジトリ
Shizuoka University REpository

Caring from the Phenomenological Point of View : Decision-making in terminal care in Japan

メタデータ	言語: eng 出版者: 公開日: 2012-11-01 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: Hamauzu, Shinji メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.14945/00006883

現象学的視点から見たケアリング
―日本における終末期医療の決定をめぐって―

浜渦辰二

ここに終末期の患者がいるとしよう。初めに、その患者が私自身である状況を思い浮かべてみよう。私は、死期が迫るなかで、どのような世界になお生きて何を大切に思い、家族・友人に何を望み、医療スタッフにどんなケアを望むのだろうか。また、別の場合、その患者が私の家族・親しい友人である状況を思い浮かべてみよう。私は、死期が迫っている家族・友人に接するなかで、どのような世界に生き何を大切に思い、その家族・友人のために何をしてあげられるだろうか、医療スタッフに何を望むのだろうか。さらに、別の場合、私がその患者に接する医療スタッフの一人である状況を思い浮かべてみよう。もはや治療の可能性がなく死期が迫っているなかで、私は医療スタッフ（医師であるか看護師であるかは今は問わない）としてどのような世界に生きて何を大切に思い、患者に、そして家族らに何をしてあげることができるだろうか。やがて訪れる死に対して、最初の場合は一人称で自分の死として向かう状況であり、第二の場合は二人称であなたの死に向かう状況であり、第三の場合は三人称として或る患者の死に向かう状況である。私たちは、このような状況のなかで、それぞれ異なるパースペクティヴからこの状況を生きている。そのなかで、何か或ることを決定しなければならないとすると、その決定はどのように行われるべきなのか。このような状況について、現象学的にどのように考察することができるだろうか。それが、本稿の課題である。